



出典：歌川広重（2世）・画《江戸名所四十八景 三十三 増上寺》（部分）東京都立図書館所蔵

江戸の「建築」観光ガイド

— 今に息づく、東京の心。 —

Edo Architecture Tour Guide: The Spirit of Tokyo

徳川家康が入府した1590年から1600年代初頭にかけて、江戸では積極的に町の整備が進められ、のちに政治や文化の中心地として発展していきます。

しかし、町人が密集して住んだ市街地では、数年に一度の割合で大火が発生しました。特に有名なのは、1657年に起きた「^{めいれき}明暦の大火」。この火災は、江戸の町に甚大な被害（約6割が消失）をもたらします。事態を重く見た幕府は、^{ひよけち}火除地（延焼を防ぐための空地）を複数設ける、主要な通りの道幅を広げ有事の人通りをしやすくするなどして対策し、結果、江戸は防火都市へと変貌していきました。

ただ、時代を経て東京と呼ばれるようになって、関東大震災での大火、第二次世界大戦の空襲による火災などを経験します。そのため、現存する江戸期の建築物は少なく、非常に貴重なのです。

暮らしの変化が 建築物の造りも変えていく

約260年間におよぶ長い江戸時代。政情が安定し、平和が続くようになると民衆の心にも余裕が生まれます。そこから旅行文化が成熟していき、観光を兼ねた旅に出る人々も見られるようになりました。その影響もあってか、見物先となるが多かった寺社はより大きく、より豪華な造りになっていきます。

一方、町中では、高価な瓦葺（瓦を用いた伝統的な施工）の屋根を持つ建物も増えてい



きました。そこまで余裕のない庶民の間では、時代や経済状況にもよりますが、長屋（平屋を中心とした集合住宅的な賃貸住宅）の板葺屋根の上に牡蠣殻をのせて防火を図る例がありました。このように、屋根一つからでも住む人の暮らしや身分がうかがえたのは、江戸建築の興味深さの一部です。

災害を越えて 今に伝わる 江戸建築の記憶



出典：歌川広重（1世）・画《江戸高名會亭畫 白山傾城ヶ窪》（部分）東京都立図書館所蔵

材料である木材が 循環した江戸の建築物

江戸時代の建築技術は非常に発展しており、木材同士を精密に組み合わせる手法がありました。この技術を駆使することで貴重な鉄（釘）の使用を減らし、なおかつ鉄錆による木材の傷みを最小限にとどめていたのです。

釘を多く使わないことには、また別の利点もありました。一番は建物の解体、木材の再利用が容易であること。木を切り出すにも膨大な時間と手間が必要だったため、木を大切にする、建築時から解体後の再利用を考えると、現代でいう「サステナブル」な行いが当たり前が存在していたのです。

1

ひのしゆく 日野宿本陣

街道に設けられた宿のある場所「宿場」には、大名など身分の高い人が利用する特別な宿「本陣」がありました。なかでも日野市の宿場（日野宿）の本陣は、新選組副長・土方歳三と関係があることで有名。1864年に再建された建物で、江戸の建築文化にも触れられるのが魅力です。建物内部すべてが見学可能、日野宿本陣に関する貴重な資料が展示されています。



写真提供：江戸東京たてもの園

2

江戸東京たてもの園

約7ヘクタールもの広い敷地に、江戸から昭和中期までに造られた30棟の歴史的建造物を移築・復元して展示。青梅街道沿いにあった旅館や村のリーダー（名主）が住んだ農家、八王子千人同心という半農半士集団の自宅、霊廟、庶民が集まる居酒屋まで見学することができます。当時の人々の暮らしが垣間見えるスポットです。



2

江戸東京たてもの園



3

増上寺

徳川家菩提寺で、6人の将軍が眠る地。その徳川将軍家墓所の入り口となるのが鋳抜門です。青銅など金属を鋳造して作られたもので、個々の部材を組み合わせるには非常に高い精度と技術が求められるとされています。伝統的な木材による門の形式を金属で再現した、江戸建築技術の粋を極める建造物として一見の価値あり、と言えるでしょう。



4

江戸城番所

「番所」は、近辺の警備や監視を行う役人（武士）が詰めていた場所です。街道の要所や町境などにありましたが、將軍の座する大切な江戸城にも当然設置されていました。現・皇居内に残っているのは「百人番所」「同心番所」「大番所」の3カ所。いずれも見学可能で、武士の日常的な勤め先の様子を伺い知ることができます。



5

やねせん
谷根千

通称「谷根千」と呼ばれる、谷中・根津・千駄木エリア。ここは震災や戦災の影響が比較的少なかったため、今でも江戸後期からの古い街並みが保存されています。寺町である谷中を中心に多くの寺社があり、大名屋敷跡（現在は公園などに転用）も残っているため、江戸の残り香を辿るには絶好の場所。徒歩での散策も可能です。



6

一之江名主屋敷

主屋はもちろん、蔵、屋敷林、屋敷神、堀まである名主の居宅。江戸中期の建物とされており、歴史を感じさせる重厚な柱や高い天井、縁側まで張り出した茅葺（乾燥させたススキなど植物を重ねて作った）屋根など、じっくり眺めてみたいものが揃っています。農民であった田島家の住居ですが、その造りの立派さには驚かされるばかりです。



画像：江戸川区郷土資料室蔵

江戸から現代へ。

継承される建築物マップ

東京の中から江戸を見つける目印となるのが建築物。名所とされる建物はもちろん、民家や街並みなどにも、その息吹が残されているからです。ここでは、今でも江戸の雰囲気が感じられるスポットをピックアップしました。

江戸のDNAを感じる建築

江戸時代の建築は、伝統技術による修理や文化財・史跡指定により保全されてきました。また、地域の守り神・顔として扱われることもあります。特に、文京区・台東区周辺は火災や戦災の被害が比較的少なく、貴重な江戸の建物が現存しています。このエリアには神社仏閣が多く存在、街並みそのものも長い歴史を感じさせてくれるのが特徴。気ままな散策を楽しむにもおすすめです。



13:00~13:10

観音寺築地塀

寺の南側を囲うこの塀は、幕末の頃に築かれました。経年による細かな損傷は生じたものの、可能な限り元の材料を使用して補修を継続。往時の姿を今に残しています。築地塀とはいわゆる土塀で、石垣の台座、上部を覆う雨除けの瓦屋根、練り土と瓦で造られた壁部分でできています。全体を漆喰で仕上げ、時代の「味」が感じられる様相です。



施設情報

- ☎ 03-3821-4053
- 📍 東京都台東区谷中5-8-28
- 🕒 — —

13:20~13:40

旧吉田屋酒店

江戸時代から代々酒屋を営んでいた「吉田屋」。1986年まで営業していて、現在は展示場として公開されています。長い庇を支える「出桁」や、格子戸などを上げ下げして開閉する「揚戸」など、江戸商家特有の建築様式を確認できるのがおもしろいところ。この間まで営業していたかのような店内から、商家の暮らしが伝わります。

施設情報

- ☎ 03-3823-4408
- 📍 東京都台東区上野桜木2-10-6
- 📅 月曜日（祝休日と重なる場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）
- 🕒 9:30~16:30



14:00~14:40 人

根津神社

五代将軍・綱吉によって、宝永3年（1706年）に造営された神社です。江戸時代に流行した神社の建築様式「権現造」を用いており、その豪華さ、完成度の高さは見事。本殿・幣殿・拝殿・唐門・西門・透塀・楼門と多くの建造物が現存していて、国の重要文化財にも指定されています。境内にある約3000株のツツジも有名です。

施設情報

☎ 03-3822-0753 📍 東京都文京区根津1-28-9
🕒 唐門開閉時間：1月・11月・12月 6:00~17:00 / 2月 6:00~17:30 / 3月 6:00~18:00 / 4月・5月・9月 5:30~18:00 / 6月・7月・8月 5:00~18:00 / 10月 5:30~17:30



人 15:10~15:20

黒門(東京国立博物館)

鳥取藩池田家江戸上屋敷の正門で、東京大学の黒門と並び称される存在。その名の通り、漆黒でどっしりとした構えが特徴で、造営は江戸末期とされています。東京国立博物館の敷地内にあり、伝統的な入母屋造の屋根、装飾的な向唐破風屋根の番所を備えた、格式高く、見応えのある門です。

施設情報(東京国立博物館)

☎ 050-5541-8600(ハローダイヤル)
📍 東京都台東区上野公園13-9
🕒 月曜日(祝祭日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始 ※臨時休館・臨時開館あり
🕒 9:30~17:00(毎週金・土曜日、また翌月曜日が祝祭日の場合の日曜日は~20:00/入館は閉館30分前まで)
※年末年始については要確認



©(公財)東京動物園協会

15:30~16:00 人

旧寛永寺五重塔

1631年に建立されたものの1639年に焼失、同年再建されました。一番上層の屋根だけが銅板葺、他は瓦葺となっています。先端の宝珠までの高さは36m。江戸初期の和風様式を残す建築物として、国の重要文化財に指定されています。その荘厳な建ち姿には強い印象を持つことでしょう。

施設情報(上野動物園内)

☎ 03-3828-5171 📍 東京都台東区上野公園9-83
🕒 月曜日(祝祭日、振替休日にあたる場合は翌日休園)、年末年始(12月29日~1月1日) ※一部月曜日が「開園」となることもあるため、公式サイトのカレンダー要確認
🕒 9:30~17:00(入園は16:00まで)





東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
東京の最新の観光情報が確認できます。
ぜひご覧ください。
<https://www.gotokyo.org/jp/>



江戸東京博物館
<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
もっと江戸について知りたい方
<https://www.gotokyo.org/jp/see-and-do/history/>



江戸東京たてもの園
<https://www.tatemonoen.jp/>



「Journey Through Edo's Legacy」
日本各地と連携した江戸時代の歴史や文化を感じる
100の観光スポットを解説
<https://edolegacytravel.metro.tokyo.lg.jp/>



Go Tokyo
(東京ファンクラブ)



@TokyoTokyoOldmeetsNew



@tokyo_kankou



tokyotokyooldmeetsnew

TokyoTokyo Old meets New EdoTokyo The heart of Edo

令和8年3月発行 東京都産業労働局観光部
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/>
監修：株式会社風プランニング